

平成 28 年度 第 1 回南砺市行政改革推進委員会会議録【全文（一部意識）】

1. 開催日時 平成 28 年 11 月 18 日（金） 午後 1 時から午後 3 時 10 分
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 講堂
3. 出席者 ○委員 15 名  
松本久介委員（副委員長）、宮本佳子委員、安達行成委員、野原哲二委員、  
三谷直樹委員、林則雄委員、栗山芳雄委員、蟹野正男委員、  
長尾治明委員（委員長）、  
武部範代委員、松村麻由子委員、  
磯辺文雄委員、沖田光弘委員、中野ミチ子委員、宮下直子委員  
○行革推進本部 13 名  
田中市長（本部長）、工藤副市長（副本部長）、  
齋藤市長政策部長、上口市長政策部担当長（行革・施設管理課長）  
吉澤市民協働部長、荒木市民協働部担当部長、米田ブランド戦略部長、  
上坂ふるさと整備部長、豊川教育部長、柴田議会事務局  
森田地域包括医療・ケア部長、叶山地域包括医療・ケア担当部長  
○事務局（行革・施設管理課）5 名  
田野行革推進係長、石崎施設再編係長、五十嵐施設管理係長、  
野村副主幹、吉田副主幹
4. 欠席者 ○委員 3 名  
石黒厚子委員、山田由理枝委員、梅本大輔委員
5. 傍聴者 なし
6. 議題 1) 第 1 次南砺市公共施設再編計画の実績について  
2) 施策・事務事業マネジメントシートの公表について  
3) 第 2 次南砺市行政改革実施計画の進捗状況について  
4) 第 2 次南砺市行政改革大綱・実施計画の改定について  
5) 第三セクターの状況等について

○開 会 午後 1 時

【行革・施設管理課長】

ただ今より、平成 28 年度 第 1 回 南砺市行政改革推進委員会を開会する。本日の会議の出席者は、配布した座席表の通りとなっている。尚、石黒委員、山田委員、梅本委員からは、所用のため欠席の連絡をいただいている。

まず始めに、選任させていただきました委員の皆様へ委嘱書を田中市長より交付する。

〔市長から委嘱書の交付〕

【行革・施設管理課長】

次に、委員長及び副委員長の選出について、諮る。「行政改革推進委員会設置要綱」では、委員長は委員による互選、副委員長は、委員長の指名によることとなっている。まずは互選の委員長について諮る。委員の皆様からご意見があれば、お願いしたい。

（「事務局一任」の声あり）

「事務局一任」の声があったので事務局から、提案させていただきたい。

これまで11年にわたり本会議の委員長をお勤めいただいた、長尾委員に引き続き委員長をお願いしたい。異議がないようであれば、委員の皆様方の「拍手」をもって、了承を賜りたい。

《拍手》

**【行革・施設管理課長】**

続いて、副委員長の選出については要綱のとおり、委員長が指名することとなっておりますので、長尾委員長より指名をお願いしたい。

**【委員長】**

それでは要綱に従って指名させていただく。地域審議会より推進の委員の中から、市自治振興会連合会の会長もお勤めで、地域の取りまとめに日夜ご尽力されている松本副委員長をお願いしたい。

**【行革・施設管理課長】**

只今、委員長より松本副委員長の指名があった。正副委員長の決定に、今一度拍手を持って了承をお願いしたい。

《拍手》

**【行革・施設管理課長】**

ここで、委員長からご挨拶をいただきたい。

**【委員長】**

南砺市と関わりを持って11年となるが、感覚としては短く感じている。市町村合併の効果をいかに市民に示していくか求められる段階に来ていると思う。エリアのスケールメリットをどう生かしていくか、企業と同様、競争の中ででてくると考える。大学でも、地域の様々な機関と連携を図りながらどのように地域創生を図っていくか、学生自身が地域の問題にどう取り組むかという課題が課せられている。富山県内でも高等教育機関がスクラムを組み、学生を交えてがんばろうとしている。行政においても、人口減少の中で地域活性化や賑わいが大きな課題である。南砺市の場合は中山間地もあるので、どのようにバランスをとりながら将来を考えていくか、他の自治体と違った課題を抱えている面もある。11年努めたが、あと2年間、各委員の意見を集約しながら南砺市の成長発展に尽力した

い。

**【行革・施設管理課長】**

続いて、副委員長からご挨拶をいただきたい。

**【副委員長】**

人口が減少する社会で、行政改革は非常に重要である。5年後、10年後を想定して行政を考えていくことが大切である。その中でも、公共施設の再編は一丁目一番地である。この計画が順調に進まないと、影響が大きい。総論賛成各論反対とならないよう、様々な意見を交わしながら行政改革のあるべき姿を追求していきたい。

**【行革・施設管理課長】**

続きまして、南砺市行政改革推進本部長であります市長がご挨拶を申し上げる。

**【市長】**

お忙しい中、委員の皆様に出席いただき、また日頃から市政運営や地域活動に御協力賜り、厚く感謝申し上げます。先日、市長として3選させていただいたが、初心を忘れることなく、皆様の意見にも耳を傾けながら市政の舵取りを行いたい。

地元選出の国会議員と懇談させていただく機会があったが、その中で安倍首相の外交の話題もあった。イギリスの国民投票やアメリカの大統領選挙、原発の問題に関する首長の選挙など、イエスかノーを問うた事柄があったが、南砺市が取り組んでいる、例えば公共施設の再編や行政改革などは、白黒をつけるのではなく、将来人口が減少していく中でどのような財源によって優先順位をつけ、どう未来に向けた地域づくりを考えていくかが大きな課題である。現在の暮らし、安心、安全もあるが、未来のまちづくりをいかにイメージできるか、大変重要だと思う。その意味でもこの委員会の議論は非常に重要である。委員長、副委員長にも様々な場面で意見をいただいている。公共施設再編による縮減だけの話となると、暗いイメージがあるが、もっと夢のある議論も含めて、委員の皆様いろいろな知恵を賜りたい。統合庁舎、病院の経営、公共施設再編も含めた地域経営について、更なるご指導をいただきたく、よろしくお願ひしたい。

**【行革・施設管理課長】**

それでは、予定の議事に入るが、ここからの進行は委員長さんをお願いしたい。

**【委員長】**

では、これから議事に入りたいと思う。まず始めに、協議事項として「第1次公共施設再編計画の実績」について事務局から説明をお願いする。

〔事務局から説明〕

**【委員長】**

事務局から説明があった。質問、意見など、活発な意見をお願いしたい。

**【A 委員】**

表現の仕方で、資料の5ページに啓蒙という言葉が書かれているが、上から目線ではなく、啓発と記載した方がよいと思う。

1ページの城端の北野軽スポーツセンターは、協議中となっている。修繕をしてもらえれば地元で受け入れてよいとのことだが、このように地元と協議が整っており、受け入れる意志がある施設については、予算をつけて先に取り組んではどうか。

**【施設再編係長】**

文面については修正する。北野軽スポーツセンターについては、耐用年数が30年だが、33年経過しており修繕が必要な状況である。今年度も交渉は続けており、地元の理解を得られるよう努力する。

**【B 委員】**

島根県の雲南市に視察に行ってきた。施設を集落に譲渡し、所有権を移転するには、地縁団体である必要がある。北野軽スポーツセンターについては、北野集落で引き受けるのは難しいが、自治振興会なら可能である。国レベルで、自治振興会に法人格を持たせる運動を行っているようである。市でもこのような例が多くあると思うので、積極的に働きかけてみてはどうか。

**【施設再編係長】**

自治振興会が法人格を持つことは現在でも可能である。また、任意団体でも指定管理者となることは可能である。ただし、譲渡する場合は、きちんとした団体であることは必要である。

**【B 委員】**

北野集落ではなく、北野自治振興会と交渉していくべきである。

**【行革・施設管理課長】**

地元から耐震化の要望もあるが、耐用年数がきている建物にそこまで投資する必要があるのか、という点で市と地元の考え方の相違がある状況である。

**【委員長】**

耐用年数の問題もからんでいるが、地域の方は活用したいと思っているのか。

**【行革・施設管理課長】**

地元の方は、活用したいと考えている。今回の資料は27年度までの実績であり、5年間で56.6%しか進まなかった。第2次の再編計画も今日配布しており、後半に、個々の施設ごとに方針を書いている。市の管理する施設を縮減していくということで30年かけて進めていきたい。指定管理は最終のゴールではなく、基本的には譲渡していきたい。

**【委員長】**

次に、「施策・事務事業マネジメントシートの公表」について説明願います。

[事務局から説明]

**【委員長】**

ただいま、事務局から「施策・事務事業マネジメントシートの公表」について説明があった。ここからは、各委員の皆様から、ご質問・ご意見をいただきたい。

**【C委員】**

ホームページにもデータが掲載されているが、指標がシートによって異なっているものがあるが、どのような指示をしていたのか。

**【行革推進係長】**

各担当課で指標を設定しているが、統一するよう指導していく。

**【行革・施設管理課長】**

指標が統一されているかも含めてチェックシート等により確認できるようにしたい。

**【委員長】**

大学にも文科省から様々な問い合わせがあり、例えば人口に関しては、どの数値を使うか指示がある。シートの内容について指摘されているが、住民の方が分析するのは難しいので、ポイントだけでも読みやすく分かりやすいものがあれば理解を得やすい。解説がついていると資料が生きてくるので、事務局で総括表の作成を検討して欲しい。

**【行革・施設管理課長】**

ポイントを示す仕組みを検討していきたい。

**【D委員】**

外部評価は行っているのか。

**【行革・施設管理課長】**

今のところ、内部で予算編成に活用しているほか、監査委員の決算審査、議会への報告に使用している。行革改革推進委員にも見ていただく方法もあるが318項目もあり、今の段階では、これが限界である。外部で評価してもらう際のポイントを絞った公表の仕方などヒントをいただいたので検討したい。

**【委員長】**

次に、「第2次行政改革実施計画の進捗状況」について説明願います。

[事務局から説明]

**【委員長】**

ただいま、事務局から「第2次行政改革実施計画の進捗状況」について説明があった。ここからは、各委員の皆様から、ご質問・ご意見等をいただきたい。

**【C委員】**

11ページに地域包括医療・ケアの推進について、「民間による介護施設やサービス事業所の増などから利用者の伸びが停滞している」と書かれているが、利用者の方が民間を使って満足していればそれで問題ないのではないか。

**【地域包括医療・ケア部長】**

民間の施設でサービスを受けてケアを受けることもよいが、施設から出て、在宅でケアを受ける人が増えれば、訪問系のサービスも増えてくる。必要であればケアを増やしていきたいという意味である。

**【A委員】**

保育園の統合がひととおり終わり民営化の検討についての記述してある。保育士の臨時職員の割合が非常に多いのが現状であり、民営化も現実的に考えていく段階にある。民営だから質が落ちるということでなく、他市では、民営化を進めているところもあるが、南砺市ではどのように取り組むか。

**【教育部長】**

保育園の統合も終わり、保育園審議会の中で民営化についても議論している。民営化のメリットとして職員の身分の保障ということはあるが、南砺市では、統合保育園が整備され、保育サービスが充実しているため、民営化してもさらにサービスがよくなること

まり期待できないと思われる。また、民間が保育園を建設する場合の補助制度があるが、そのメリットが少ないと考えられることから民営化は少し時期が早いのではないかと議論しているところである。

#### 【E 委員】

幼児が始めて社会と触れるのが保育園であるが、なるべく自分の住んでいる地域の町内の方とコミュニケーションして欲しい。統合によるスケールメリットで経費が削減される点もあるが、他の考え方もあり、多様性も考慮して欲しい。

また、公共交通の項目で、市民の満足度が下がっている。その理由を考えて欲しい。就職してバス通勤することを調べてみたが殆ど不可能な状態である。日中の病院等への移動ができるようになっているが、マイカーを使用せず、バスでも通勤通学が可能な路線を検討して欲しい。

#### 【教育部長】

保育園が統合して地域とのコミュニケーションに問題があるのではないかという意見について、例として、旧吉江保育園で行っていたもちつき行事が、かがやき保育園では、みんなから理解が得られるか、運営費はどうするか、などの問題点が挙がった。年齢の区分けの工夫により行うことが出来たが、地域イベントへのアトラクションの参加など、地域のコミュニケーションが難しくなっている状況がある。案件ごとに協議し、なるべく地域とのコミュニケーションがなくならないように努めたい。

#### 【行革・施設管理課長】

公共交通について、確かになんバスは生活への利便性を重視しており、通勤に殆ど利用できない点に関しては精査しなければいけない。使いやすく安いと感じている市民の割合が三分の一とはショックな数値である。公共交通のあり方についてアンケート調査を行っているが、どうすればもっと利用してもらえるのか、活性化できるか年度内をかけて検討したい。

#### 【B 委員】

職員の定数削減の目標削減はどのようになっているのか。一般職と、保育士、看護師を分けて考えないといけない。保育園の正職員の割合がどんどん下がっていると聞いている。少なくともクラス担任は正職員であるべきだと考える。

また、職員の級別定数は南砺市では定めているのか。部長級は何人、課長で何人など。部長級が増えると人件費は増える。国家公務員では、階級別定数管理を行っている。青天井になっているのか。

**【市長政策部長】**

第一次定員適正化計画は平成27年度までであり、201人の削減目標に対して207人を削減し目標達成した。平成28年度から第二次定員適正化計画を行っている。医療系の職員は除外している。保育士は定数に含まれ、計画の中では増やす方向である。その分、第一次計画に比べると削減はゆるやかなものとなっている。職階の定数については組織と関連がある。定数は定めていないが、予算の中では、何級に何人配置するかは示しており、給与費の総額を前年度と比較して把握し、急激に増えるようなことはないようにしている。

**【B 委員】**

今回の組織改編で、担当部長が増えた。国家公務員だった頃に非常に苦勞した記憶があるが、級別定数を定めている。南砺市でも、議会の承認を得て決めるべきであり、内部のみで部長を増やしていくのは不自然な印象を受ける。南砺市の職員数の計画は示されているのか。庁舎の再編もあり、一旦棚上げしている状態だったか。

**【副市長】**

棚上げという意見もあったが、最終的に計画を策定することにした。そのかわり、見直し条項を入れて、5年間の間に再編の方針が定まったら見直すことになっている。

**【B 委員】**

このような資料に定員管理の進捗状況があってもよいものだが。保育園の正職員率がなぜ年々落ちてきているのか。採用すれば済む話だと思う。

**【市長】**

率はあがっている。担任の正職員率を上げる計画に従って、今年の採用から退職者の数より倍くらいの採用を行っている。

**【B 委員】**

片方で定員を抑制し、もう片方で保育士を採用している、ということを推進委員会でも示せば、市民にアピールできる。

**【市長】**

地域包括ケアの部門と保育士の部門は増やしており、一般部門は庁舎の関係もあるので、部署のあり方と合わせて検討している。

**【委員長】**

市が方針をたてて計画に沿って進捗しているのであれば、市民の分かりやすいように公開して欲しい。



**【F 委員】**

公共施設へのネーミングライツの導入により少しでも収入を得ようという項目があるが、実績なしと書かれている。取組はしていないのか。

**【行革・施設管理課長】**

積極的な取組が進んでいないという状況である。次期の計画の策定の中で盛り込むか検討していきたい。

**【委員長】**

職階についてはどのように考えるか。

**【市長】**

組織のあり方の中で変えていくことになる。

**【B 委員】**

部長級の定数は何人にする、等の目安は市民に明らかにするべきであると考ええる。

**【市長】**

国家公務員の場合は、法律上定める必要であるが、地方自治法ではそこまで求めていることもあり、今のところは定めていない。

**【委員長】**

職階定数の考え方、枠組みは、市民にも示せばどうかという意見である。それに対する質問もあるかもしれないので、丁寧な説明が必要だと考える。

**【市長政策部長】**

他市の状況を研究した上で、南砺市でも取り組んでいくか判断していきたい。

**【委員長】**

次に、「第2次南砺市行政改革大綱・実施計画の改定」について説明願います。

[事務局から説明]

**【委員長】**

ただいま、事務局から「第2次南砺市行政改革大綱・実施計画の改定」について説明があった。ここからは、各委員の皆様から、ご質問・ご意見等をいただきたい。

**【委員長】**

異議がないようなので、説明のとおり進めて欲しい。

**【委員長】**

次に、「第三セクターの状況等」について説明願います。

[事務局から説明]

**【委員長】**

ただいま、事務局から「第三セクターの状況等」について説明があった。ここからは、各委員の皆様から、ご質問・ご意見等をいただきたい。

**【B 委員】**

城端クアガーデンを運営している会社は、赤字がひどいので、出資金を90%カットする予定と聞いている。市の出資金はどうなるのか。市と相談して行っているのか独自で行っているのか。

**【ブランド戦略部長】**

ジェイウイングは、10分の1の減資を行う方向性である。市の株価についても10分の1に下がる。これによって、監査法人等にかかっていた経費が削減し、また、累積の損益を一旦清算し、経営基盤を建て直す等の効果が期待されるので理解いただきたい。市からは、市長が取締役として関わっている。福野まちづくり株式会社と株式会社木彫りの里についても過去に減資を行っている。

**【G 委員】**

このリスト以外には第三セクターはあるのか。また、一般財団法人利賀ふるさと財団と公益財団法人利賀村農業公社は、赤字同士で合併したが、その経緯を教えて欲しい。

**【行革・施設管理課長】**

この資料には、出資割合が25%以上の法人を掲載している。これ以外のものを合わせると17団体になるが、合併により1団体減ったので、16団体である。

**【ブランド戦略部長】**

利賀ふるさと財団と公利賀村農業公社の統合については、経営基盤を安定させることが第一である。職員の有効活用も大きな目的であり、6次産業という新しい分野にも取り組むという効果を期待して合併した。

**【委員長】**

経営状況が厳しい第三セクターが多いが、改革実施計画により経営改善していくことを期待したい。その他で何かあるか。

[次回の開催について事務局から説明]

**【委員長】**

全体を通して、ご質問・ご意見等をいただきたい。

**【H 委員】**

事務事業マネジメントシートはホームページや情報公開コーナーで公表しているが、関連した施設に掲示すればどうか。

**【行革・施設管理課長】**

どのような方法があるか、検討してみたい。

**【G 委員】**

空家対策の情報は南砺で暮らしません課に集まっていると思うが、例えば入居条件等は公開しているのか。また、伝統文化の継承や保存について、地元への支援や啓蒙などは行っているのか。

**【市民協働部長】**

空家対策に関する計画を策定するために、自治会等に調査を依頼しているところである。その結果や所有者の意向も確認した上で、審議会で協議し、具体的な空家対策を検討していく。調査内容で個人情報以外の部分については情報開示していきたい。空家バンクの取組も行っており、調査結果を組み込んでいきたい。

**【ブランド戦略部長】**

伝統文化の保存継承支援については、例えば城端曳山の庵唄を演奏する人材不足問題が挙げられている。井波、福野、福光も含めた庵唄の協議会を設立し、専門の先生を招くなどして技術をあげる活動を行っている。また、世界遺産の家屋の保存支援等も含め、南砺市文化芸術振興基本計画に盛り込んでいる。

**【委員長】**

他に意見がなければ、以上で第一回の委員会を終了するが、市民に対してこの委員会で行っていることを分かりやすく伝えることが大切だと感じる。市民の視線で図示化できる

ものはグラフ化するなどし、興味関心を持ってもらうことが重要である。18歳が投票権を持つようになったこともあるので、若者にも分かりやすいようにしていただければと思う。

**【行革・施設管理課長】**

委員の皆様方には、長時間に渡り貴重なご意見をいただいた。それでは、閉会にあたり、市長からご挨拶申し上げます。

**【市長】**

長時間にわたり多くのご意見をいただき感謝する。事務事業マネジメントシートは、一つ一つの事務事業について各職場でPDCAサイクルに活用しているが、これだけでは分かりにくいと感じる。予算編成のプロセスを明らかにするため予算のあらましを配布しているが、決算についても、市民に明らかに示すべく、毎年バージョンアップしている途中である。別の見せ方により分かりやすくし、いかに興味をもってもらうか皆様の知恵をいただきながら改善したい。25%以上の出資をしている第三セクターについては、法人が自立していくことを目指しているが、最終的には、個別の公共施設の運営にその法人が妥当かどうか、見定めていかなければいけない可能性もある。地域の活性化のために設置した施設をいかに多くの市民に利用してもらえるか、観光客を呼び込むことができるか、それぞれの第三セクターと検討していかなければいけないが、委員の皆様にも是非利用いただきたい。今後、統合庁舎のほか、それぞれの地域での公共施設のあり方を考えながら、施設をなくすだけでなく、必要であれば民間の力も入れていかなければいけないと考えており、積極的なご意見をいただきたい。ネーミングライツについては、大きな会社に二つ断られた経緯があり、例えば、公告方法が難しかったりするが、ほかにもよい方法がないか模索しているところであり、いろんな企業に少しずつ理解を得られるようなムードづくりが大切だと思う。長時間わたり様々な議論をいただいたが、今後ともよろしくお願ひしたい。